巻頭特集 いなべレスリングクラブ

レスリング王国・三重を支えるホープたち

世界大会16連覇を成し遂げた吉田沙保里選手をはじめとする県出身選手たちの活躍によって、「レスリング王国」と呼ばれる三重県では、かつてよりジュニア選手の育成が盛んだ。いなべ市を拠点とする「いなべレスリングクラブ」は、全国で名が知られる強豪クラブのひとつ。昨年の世界選手権で、男子フリースタイル36年ぶりとなる金メダルを獲得した高橋侑希選手や、同選手権で銅メダルを獲得した、藤波勇飛選手など世界を舞台に活躍する選手を輩出してきた。

幼少期からの育成で競技力向上を目指す

レスリング日本人選手の活躍が目覚ましい。昨年8月、フランス・パリで開催されたレスリング世界選手権では、出場国最多の6個の金メダルを獲得し、その強さを世界に見せつけた。代表選手24人のうち、5人が三重県出身。さらに3人が金メダルを獲得した。その中の一人、男子フリースタイル57kg級の高橋侑希選手は、「いなべレスリングクラブ」の出身である。

クラブ設立は、20年以上前にさかのぼる。現在、全国大会への出場常連校である三重県立いなべ総合学園高等学校レスリング部の監督を務める藤波俊一さんが一念発起した。

いなべレスリングクラブ
三重県立いなべ総合学園高等学校
レスリング部
藤波 俊一監督
レスリングの普及と強化のために、いなべレスリングクラブを設立。日本オリンピック委員会コーチングディレクタージュニア担当コーチも務める。藤波勇飛選手と朱理選手の父

「一志ジュニアレスリング教室などはありましたが、当時は小・中学生向けのクラブがまだ少なかったころ。三重県立員弁高等学校（当時）レスリング部の強化には、競技の普及が不可欠でした。裾野を広げなければならないと、クラブ創設を決意しました」と思いを明かす。

国際大会で戦うクラブ生 狙うは世界の頂点

ターニングポイントは約10年前。当時中学生だった高橋選手の入部がきっかけだった。小学5、6年生で全国少年少女選手権連覇を成し遂げた高橋選手の加入により、チームのレベルが引きあがったという。

さらに数年後、藤波勇飛選手が全国中学生レスリング選手権大会で3連覇を達成。クラブの名は、全国に広がった。

現在の部を牽引するのが、中学3年生の藤波朱理選手と、弓矢健人選手。今年5月に、ウズベキスタンで開催されたアジア・カデット選手権に出場し、朱理選手は金メダル、弓矢選手は銅メダルを獲得した。藤波監督を父に、勇飛選手を兄に持つ朱理選手は、2月のクリッパン女子国際大会に続いて国際大会2度目の金メダルを手にした。現在は、7月の世界カデット選手権に焦点を合わせて、練習に励む。

目指すは、世界の頂点。「外国人選手は力が強いので、足を取られないようにしたい。『絶対に負けやん』という気持ちで優勝を狙う」と闘志を燃やす。

弓矢選手は、小学生から競技をスタート。「厳しい練習にくじけそうになったこともあったが、夢があるからこそ頑張れる」と胸のうちを明かす。目標とするのは、高橋選手。「どんな相手に対しても強気で挑むところを見習いたい」と先輩の背中を追いかける。

２０２１年の三重国体、２０２４年のパリオリンピックを見据える2人。「兄と一緒に国体で優勝したい」と朱理選手。弓矢選手は、「自分の活躍で、後輩たちの手本になりたい」と力を込める。

互いの存在に切磋琢磨 相乗効果が強さの秘密

約10人の生徒で産声を上げたクラブは現在、園児から中学3年生までの35人が所属する。いなべ総合学園高校レスリング道場を拠点に週4日活動。平日は19時から21時まで仲間とともに汗を流す。開脚前転や倒立前転などの準備運動に約1時間を費やしたのち、打ち込みやスパーリングなどの技術練習へと移る。

強さの秘密を問うと、藤波監督は答えた。「日曜日午前は、園児から高校生までが集まる合同練習。世界や全国の舞台で活躍する選手に感化され、子どもたちはより一層練習に励みます」。直径9メートルの円形マットがすっぽりと収まる道場に、約50人が一堂に会す日曜日。互いを刺激しあう相乗効果が、技術向上につながっている。

「取るか取られるかの駆け引きが、競技の醍醐味。まずはレスリングを楽しんでもらうことを大切にしています」と話すのは、三重県立員弁高校（当時）レスリング部出身の弓矢完二コーチ。その言葉が示すとおり、厳しい練習ながらも子どもたちの表情はいきいきとしている。休む間もなくスパーリングに挑む姿からは、大人顔負けの迫力が見えた。今年7月に開催される全国少年少女選手権には、クラブから13人が出場。大会を目前に控え、コーチ陣の指導はより一層力が入る。

競技に打ち込めるのは、周囲の理解と協力があってこそ。子どもたちは、家族や指導者、仲間に対する敬意を忘れない。練習後の整理運動では、2人1組で肩車や腕立て歩行をして道場内を駆け回る。年長者は常に年少者に目を配り、まるで兄弟のように仲が良い。「けんかを仲裁するなど、我が子はレスリングを通して正義感を身につけました。試合で戦うのも観戦するのも好きで、動画サイトを見ては研究をしています。夢中になれるものが見つかってよかった」と保護者は優しいまなざしをおくる。「うちの子は、体重計に乗るのが日々の習慣です。全国大会を見据えて、体重を増やしている真っ最中。プロ顔負けのアスリートです」と隣り合った保護者と微笑み合う。

クラブ設立から20年。競技強化と普及への情熱は、確実に実を結びつつある。「日本男子の低迷が続いていたが、ようやく金メダルを取れた。女子に負けず劣らず、男子でも世界をとりつづけたい」と藤波監督の夢はさらに膨らむ。

弓矢 完二コーチ
日本体育大学在学時には、全日本学生選手権グレコローマン57kg級で２連覇を果たした。昨年の国民体育大会レスリング競技少年男子フリースタイル50kgで優勝を果たした弓矢暖人選手（三重県立いなべ総合学園高等学校レスリング部）と、クラブ所属の健人選手の父

上）全国を目指しながらも、楽しむことをモットーとする。今年は、全国少年少女選手権に13人が出場。昨年を上回る結果を残したいと意気込む　下）「強い選手に共通するのは、何度も反復してコツコツと取り組む真面目な姿勢」と弓矢コーチ

休むことなく、スパーリングを続ける子どもたち。その集中力は目を見張るものがある

弓矢 健人選手
2018年全国中学生選手権男子47kg級で優勝し、優秀選手（大会会長賞）受賞。「攻めに対する気持ちをもっと強く持ちたい」とさらなる高みを目指す

藤波 朱理選手
2003年生まれ。2018年全国中学生選手権女子52kg級で優勝し、最優秀選手（茨城県知事杯）に選ばれた。7月の世界カデット選手権への出場を控える